

足利赤十字病院

栃木県足利市五十部町 284-1

電話 0284-21-0121

足利赤十字病院は栃木県の南西部、群馬県との県境の足利市にあります。

足利市は人口約 15 万 5,000 人。まちの中心には、日本最古の学校といわれる『足利学校』や、足利氏ゆかりの『ばんな寺』をはじめとする数多くの歴史財産が残されており、今も古き時代の面影を残しています。

また、古くから織物のまちとして栄え、近年はアルミや機械金属、プラスチック工業などを中心に、総合的な商工業都市になっています。



足利学校



ばんな寺 (饗阿寺)



足利市のイメージキャラクター 「たかうじ君」

足利市のイメージキャラクター 「たかうじ君」は足利学校の学校門と足利尊氏公の兜（かぶと）をかたどった帽子をかぶり、手には織物を持ち、足利市章を盛り込み、足利市をキャラクター全体で表現しています。

このような足利市に昭和 24 年 7 月に日本医療団の解散に伴い、日本医療団足利病院の経営が日本赤十字社に移管され、日本赤十字社栃木県支部足利病院として発足しました。発足当時は 23 床でしたが平成 17 年には 614 床の病院、その間付けたし病棟で医療を行ってききましたが、建物の老朽化、手狭、駐車場問題などもあり平成 21 年に足利競馬場跡地へ「新足利赤十字病院建設用地の引渡し式」が挙行され、平成 23 年 7 月に新病院として開院しました。



新足利赤十字病院

新病院の規模は

病床数 555 床 内訳 一般病棟 500 床、結核病棟 15 床、精神病棟 40 床です。

一般病床の中には緩和ケア病棟 19 床、回復期リハビリテーション病棟 50 床もあり、病室は全室個室です。

個室料金は無料個室が 6 割あり、有料個室料金は 2,625 円～15,750 円です。

それでは、新病院の放射線部門を紹介します。放射線技術課は医療技術部に所属し、3 課 6 係 22 名の診療放射線技師がいます。救命救急センターをもち常時日勤帯は 19 名～20 名、当直者 1 名、オンコール者 1 名で 24 時間体制にて業務に当た

っています。各課の紹介は私、放射線技師長からではなく、現場業務に精通した各課長にお願いします。新病院の稼働件数及び稼働機器に関しては私が紹介します。平成 23 年 11 月の稼働件数を掲示したのは、移転 5 ヶ月目、夏季休暇もなく装置の操作にも比較的慣れてきた頃なので紹介しま

す。

また、手術室血管撮影は平成 24 年 10 月ごろ血管撮影装置 Artis Zee TA が導入され、ハイブリット手術室に変わります。

平成 23 年 11 月の稼働件数

	機器名	11 月
一般撮影	BENEO	1585
胸腹部撮影	RADspeed Pro	2269
歯科撮影	モリタスーパーベラビューC2 ・モリタ X28	174
第一乳腺撮影	AMULET	162
第二乳腺撮影	AMULET	180
血管撮影	Artis Zeego	22
心臓カテーテル	シーメンス AXIOM Artis dFC	82
緊急カテーテル	シーメンス AXIOM Artis dBA	4
手術室血管撮影	手術室用モバイル型 X 線撮影装置	3
手術室撮影	シーメンス MOBILETT	158
病棟撮影	シーメンス MOBILETT (3 台) MobileDart Evolution (救命救急センター)	1217
骨塩定量	Discovery Ci 型	110
救急撮影	RADspeed Pro	873
救急 CT	AQUILION Cx	452
第一 CT	AQUILION Cx	926
第二 CT	AQUILION ONE	667
第一 MRI	MAGNETOM Avanto	229
第二 MRI	MAGNETOM Verio	200
第一透視	CUREVISTA	219
第二透視	VersiFlex-VISTA	120
多目的撮影	Sonialvision Safire17	72
結石破碎	リソトリプター SII	42
健診撮影室	KXO-50R/DST-100A	164
コピー	レーザーフィルムデジタイザー2905M	142
第一 RI	Symbia-S RS	137
第二 RI	Symbia-S	109
治療 CT	シーメンスゾマトム センセーション 16	15
放射線治療	Synergy 「特別仕様」	391
	合計件数	10724

一般撮影技術課

【一般撮影部門】

一般撮影部門は、X線撮影室2室、乳腺撮影室2室、歯科撮影室1室、骨密度測定室1室となっています。

X線撮影室は、胸腹部撮影用に富士フィルムメディカル CALNEO U (FPD 間接変換) + 島津メディカル RADspeed Pro (立位、臥位 2 管球)、また頭部、脊椎、四肢等、一般撮影用に、富士フィルムメディカル BENEEO (FPD 直接変換) (立位、臥位 2 管球) を使用しています。頭部、四肢撮影では主に CR システムにて撮影を行い、脊椎、股関節の撮影では主に FPD で撮影を行っています。

乳腺撮影室は、富士フィルムメディカル AMULET 2 台で、うち 1 台が BIOPSY 生検位置決めオプションを搭載しマンモトームを行っています。画素数 50 μ m 直接変換 FPD の採用で微小石灰化やノイズの少ない画像を描出しています。またベッドは側臥位専用のタカラベルモント製を使用しています。

歯科撮影室は、モリタ Veraview epocs にてパノラマ、顎関節、セファロ撮影を行い、モリタ X28 にてデンタル、ビス撮影を行っています。

当院はデンタル撮影を最後に全てフィルムレスとなりました。

骨密度測定室は、ホロジック Discovery Ci を使用しています。前装置もホロジック製を使用していたためデータ移行も問題はありませんでした。

病棟撮影はシーメンス MOBILETT Plus HP を 3 台、手術室撮影は同装置を 1 台使用しています。病棟、手術室撮影は CR システムにて行い、読み取り装置は富士フィルムメディカル XL-2 を各装置保管場所に 1 台毎に設置してあります。

健診撮影室は、東芝 KXO-50R+富士フィルムメディカル FCR XU-D1 で胸部撮影を行っています。救急撮影室は富士フィルムメディカル CALNEO U+MT+島津メディカル Radspeed Pro (立位、臥位 1 管球) を使用しています。CR 撮影にも対応するため読み取り装置は富士フィルムメディカル XL-2 をタンデムにて使用しています。また、CALNEO C (カセットタイプ wireless) も併せて使用しています。

救命救急センターの室内撮影に対応するため島津メディカル MobileDaRt Evolution+キャノン CXDI-70C (カセットタイプ wireless) も使用しています。



一般撮影技術課スタッフ 上段 蓼沼技師・新井技師・角田技師・野村技師
下段 中里課長・飯塚技師・木下技師・須藤係長

【血管造影部門】

血管撮影 IVR 室はシーメンス Artis Zeego を使用しています。多彩な C アームのポジションにて広範囲な撮影が可能となりました。また LargeDisplay により検査ごとにモニターの使用を変えることが出来ます。それから 3D ロードマップは以前より簡便に使用できるようになりました。心臓カテーテル室はシーメンス AXIOM Arttis dFC、緊急カテーテル室はシーメンス AXIOM Artis dBA を使用しています。この 2 台は旧病院からの移設機器を使用しています。今回移転時に心臓カテーテル検査は動画サーバーを導入し、電子カルテ上にて観察することが出来るようになりました。また手術室内の血管撮影室の機器を今年中に更新する予定です。

治療・核医学技術課

【放射線治療部門】

放射線治療のスタッフは常勤医師 1 名 & 非常勤医師 2 名・専従技師 2 名 & 兼任技師 2 名・看護師 1 名です。また、認定放射線技師として放射線治療専門放射線技師、放射線治療品質管理士、医学物理士、第 1 種放射線取扱主任者の資格も取得しています。

治療装置は ELEKTA Synergy+Apex(外付け 2.5mm μ MLC) + HexaPOD(6 軸寝台)、RIS は MOSAIQ、RTP は Pinnacle 3、QA ツールは Delta 4 + MapCheck 2 + Blue Phantom 2+DD-System を使用しています。

治療核医学技術課スタッフ

上段 寺内技師・前川技師・石田技師
下段 長瀬係長・簾谷課長・三浦係長



業務内容は通常の放射線照射のみですが、春から定位放射線治療開始に向け準備中で、今後は原体照射に強度変調機能(IMRT)を加えた治(VMAT)も予定しています。

がん患者増加に伴い、放射線治療の件数も増加するなかで、高精度照射技術の進歩に対応すべく現場スタッフは大変ですが、弱音を吐かず頑張っています。

【核医学部門】

核医学のスタッフは非常勤核医学読影医師 1 名・専従技師 2 名 & 兼任技師 2 名・看護師 1 名です。また、認定放射線技師として核医学専門技師の資格も取得しています。

γ カメラは SIEMENS Symbia 2 台体制で、機能的特徴として IQ SPECT があります。

これは SMARTZOOM と言う多焦点ファンビームコリメータを使い、被検者を動かすことなく心臓を中心に収集する技術で、開口補正付き 3D-OSEM 画像再構成アルゴリズムから構成され 1/4 の時間で撮像できます。

1 台目の γ カメラで負荷心筋シンチグラム・脳血流シンチグラムを、もう 1 台の γ カメラで骨シンチグラム・ガリウムシンチグラムを中心に検査を分けて実施することで業務と教育環境の効率改善を進めています。その他、メタストロン注 (塩化ストロンチウム 89) による骨転移の疼痛緩和治療も予定しています。

特殊撮影技術課

特殊撮影技術課では、CT 装置、MRI 装置、透視撮影装置、結石破碎装置を 8 名のスタッフで運用しています。CT 装置は 320 列 1 台、64 列 2 台 (内 1 台は救命救急センター)、MRI 装置は 3T 1 台、1.5T 1 台、透視撮影装置 3 台 (内 1 台は多目的・トモシンセシス撮影装置)、結石破碎装置 1 台という構成です。

新病院オープンから約 9 か月経過しましたが、スタッフの努力のおかげで、おおむね順調に稼働しております。

人員的に余裕はありませんが、各装置の責任者の指導のもと、スタッフ全員がすべての装置でルーチンワークをこなせる技術を持つことを目標に頑張っています。



特殊撮影技術課スタッフ 上段 大川係長・中室係長・桐山技師・久保田課長
下段 深澤技師・早乙女技師・高栖技師